　　２０２１年４月１０日

一般社団法人長崎県サッカー協会

審判委員会　委員長　小川直仁

「２０２１年度長崎県審判委員会活動方針について」

**本年度テーマ「『　連帯と進化　』　日本一の審判委員会を目指し　夢の実現へ向けて！　」**

**サブテーマ ～ 長崎県審判トレーニングセンター(ＮＲＴＣ)による成長戦略の更なる進化 ～**

**「　結束から連帯へ　　再生から進化へ　」**

１　　審判員・審判指導者に求めること

　　　　【日本協会】

　　　　Vision　 ― 目指す姿：審判活動を通じて全ての人の感動とよろこびに貢献する

Mission ― 果たすべき使命：誰もが楽しめ信頼しあえるレフェリング

Values ― 見出す価値観：自立した魅力ある審判員であるために

1. 価値観の共有　（目指す姿）

　　　　　・長崎県民及びサッカーファミリーにサッカーの感動とよろこびを伝えていくことができる。

⇨自覚、責任

　　　　　・スポーツ・サッカーができる平和や安心・安全な社会の一翼を担っている。

　　　　　　⇨悦び、使命

　　　　　・長崎県サッカーの競技力向上に貢献する。

　　　　　・自身及び家族、関係者、すべての人々の豊かな人生に寄与する。

1. 私たちがやるべきこと　（果たすべき使命）

　　　　　・社会の一員として協調し、ルールを守り、貢献していく意識を高く持ち続け、

信頼関係を構築していく。

　　　　　　→　「連帯」 見えない敵と戦い続けている今、社会全体と連携し、多様性を尊重していく。

→　法令順守　信頼を損なう行為の根絶。ハラスメント・暴力の禁止・根絶。

→　社会貢献　審判員・審判指導者として「謙虚な姿勢、感謝の気持ち」を忘れない。

→　人と人を繋ぐ　県内各所・離島に貢献し、サッカーファミリーを増やしていこう！

　　　　　・信頼感のあるレフェリングを追求する。

　　　　　　→　兎にも角にも争点に近いレフェリング

→　走ることに妥協しない・させない　　「長崎県のレフェリーは走る！」

→　日々のトレーニングはピッチ上で自信を持つため　「準備は、成功の８０％。」

→　短期・中期・長期目標を持ち、計画的に　「自立」しなければ向上しない。

「積極的・能動的」な参加。

　　　　　・自分磨きを怠らない。

　　　　　　→　世界のサッカー進化・日本サッカー文化等の探求・研鑽

スピードの増加、ＶＡＲ、映像分析、語学、・・等。

→　「態度は変えられる」レフェリー・コーチ　　姿勢、表現力、教えない・気付かせる、個性＝魅力

　　　　　・「自立」した持続可能な組織を形成していく。

　　　　　　→　若い人材の登用・活用・能動により、審判委員会運営を持続可能な組織へと進化させていく。

２　重点施策

　　①登録数の増加を目指していく。

登録数は、20２０年3月　2８１０名登録から、２０２１年度末　２７７２名登録と微減（△１．４％）した。

このことについては、コロナ禍の中、全てがオンラインによる研修・更新講習会となりながら、多くの皆さんの御努力で達成した登録数であると、微減ながら逆に感謝の気持ちが絶えない。関係者の皆さん御苦労様でした。

現在、日本協会では、全国における全体の登録数（選手・審判員の全て含む数）が大きく減少し、田嶋会長は「危機感をもっている」と表明した。長崎県は、減少幅は小さいものの、やはり全国と同じような傾向（18・19歳の減少率が高い）がある。

私たちは、当初長期目標（2015年から）3000名をいまだ到達していない。さらに、力を合わせて取り組みましょう

　　　　　　　　　　　　【　2020年度末　審判関係　登録数状況について　】（202１．3．3　現在）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| カテゴリー | １級 | ２級 | ３級 | ４級 | 計 |
| ｻｯｶｰ審判員 | 3（1） | ６０（3） | 2８２（４） | ２１４２（５３） | ２４８７（６１） |
| ﾌｯﾄｻﾙ審判員 | ０（0） | ７（0） | 2９（0） | 2１１（3） | ２４７（3） |
| ｻｯｶｰ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ | ３（0） | １９（1） | 1３（0） |  | ３５（1） |
| ﾌｯﾄｻﾙ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ | ０（0） | ２（0） | １（0） |  | ３（0） |
| 注　－　男女総数（女性のみ） | | | | | ２７７２（６５） |

②　長崎県審判トレーニングセンター（ＮＲＴＣ）の進化期へ

５柱　「審判員強化事業（ＮＲＳＴ）」　「審判アカデミー事業」　「審判指導者イントレ事業」

「レフェリーマネジメント事業」　「ブロック部会＆郡市委託事業」※2020年度版

地域トレセンと県ＦＡトレセンがどのように連携を図っていくか、各部各県代表者会議開催。

　　　　夢「九州からＷ杯決勝主審を出す。」

→中期ビジョン「イレブンプロジェクト」2021年までに九州ＦＡから11人の1級審判員を出す。

→　ミッション（県ＦＡとして）「九州プール審判員の輩出」「イントレの活用」

「有望人材（審判員・指導者）の発掘」

1. 若手審判員及び若手審判指導者の普及・育成・強化

　　・普及―郡市審判長会議の協力を得ながら、「郡市共同事業（地域振興キャラバン）」を企画し、離島への

審判員派遣

・講習会を開催することによって、若手審判員普及・発掘拡大の一助とする。

・　育成―アカデミー／ユース／プレアカデミー研修、Ｕ－１２大会１人審判研修、グラスルーツ研修　他。

・昨年度、３名の新規２級審判員、2名の新規2級審判インストラクターを育成した。

・大学生・社会人（1種）対象新規３級審判員昇級研修会の開催を実現する。

　　　・強化―月例研修会の開催。

・月例の体力測定会や競技規則演習会で１級審判員を目指す高い志を支援する。

　　　・Ｋｙｕ１・Ｋｙｕ２・九州アカデミー審判員、強化審判員、ユース審判員、それぞれの自己実現を最大限に

支援する。

３　最後に

壁というのは、できる人にしかやってこない。  
超えられる可能性がある人にしかやってこない。  
だから、壁がある時はチャンスだと思っている。

 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　イチロー

　　　皆で心を一つにして

　　　　　長崎県サッカーの発展に

　　　　　　　尽力してまいりましょう！

　　　失敗を恐れず

　　　　　一人一人能動的に

　　　　　　　取り組んでまいりましょう！

失敗が人間を成長させると、私は考えている。  
失敗のない人なんて、本当に気の毒に思う。

本田　宗一郎

　　その結果、

自立した魅力ある審判員

　　　　　審判委員会になっていくことでしょう！